

昭和三十五年六月二十二日 講演の一節

## 「時局に念う」

皆さんは箱根に行かれて御承知の方もあると思いますが、あの元箱根から関所の方へ行く新道と旧道とが交っている所に、石碑が建っています。この石碑には今から三百年前、丁度元禄時代に長崎出島のオランダ屋敷にいたドイツ系のオランダ人・ケンパーさんの言った、日本の景色の佳いこと、日本人が廉潔で誠実で勇気に富んでいる点等を賞めた言葉が書いてあります。その横に、ケンパーさんは、日本をこんな風に観ているが、その国民は今や西と東とに文化の十字路に立っている、この新道と旧道との交点で、前から持っていた立派なものを保ちながら新しいものを取り入れて、立派な日本を造らなければならない、と刻んであります。その石碑は、オーストリアのバーニーさんという非常な親日家のお爺さんの仕事です。バーニーさんは日本が好きで、戦前長く日本で生活し、戦後再び来日して、自分の好きな湖水をへだてて富士の嶺の見える箱根に暮し、八十五才の高齢で歿されました。

オランダ人・ケンパーさんは、滞在僅か二年

で、江戸と長崎との間を二回か三回往復した当時の領事であった。またオーストリア人・バーニーさんも日本に来た一旅行者に過ぎなかったが、こうした外国の人で日本の良いところを認めて、その発達を願っている人も少なくない。従ってこれ等の人に認められた日本の美点は失わないようにせねばならない。

音楽として立派な雅楽なども、日本では大衆の間に伝わり、今尚残っている。美術や芸術の方面でも、絵画となり彫刻建築となって、極めて民主的に保存されている。これらを思いあわせると、政治経済の面でも今後の工夫によっては充分良くすることが出来ると思えます。

それには、一人一人が立派な人になって、それが全体としてまとまったものでなくてはならない。人々は各自が自由で、しかも隣との繋がりがしっかりとっていることである。

よく引く例であるが、鎖のような繋がりで、和敬塾なら和敬塾、学校なら学校、日本なら日本、世界なら世界と、各自が一人一人自覚して横につながって、大きな輪を作ると同時に、縦

には先祖から子孫に繋がる輪の中でも重要な所に居るのである。従って皆さんの一人一人は横には世界に拡がり、縦には祖先から子孫に及ぶと共に、こうした輪の一環として立派に鎖の一部としての使命がある。

戦争中は右翼のファッショのイデオロギーで結ばれ、戦後になると、もっと左翼的なイデオロギーで繋がれるといったような、お寺の数珠が一本の糸で結ばれているような姿であってはならない。糸が切れると一つ一つはバラバラになってしまうのである。これでは駄目で鎖のように一人一人が隣と完全に繋がりがながら、一つの輪になってゆくことが大切である。お互いに一人であつても、単なる一人ではなく、昔から全体の一部で、悠久の過去から永遠の未来に及ぶ長い流れの間の一つである。

私共は、人の尻馬に乗って動くのではなく、一人一人の行為は常にしっかりと自覚によってやるのでなくてはならない。

皆さんが学問的に物を考える場合、その考え方は、第一に「物と人間との関係」、第二に「人

朝日新聞顧問 嘉治隆一先生

と人との関係」、第三には「人とその心との関係」と三つの方面から考えることが必要である。

第一の物と人間との関係は自然科学として扱われて、その法則は世界に共通しているのである。ニュートンの定理がアインシュタインによつて多少の訂正はされることがあつても、方程式は万国共通である。

第二の人と人との関係になると、社会科学であつて、万国共通の方程式として扱うことは無理となる。しかし社会科学の研究者達は、人の面から見た人間関係も、自然科学と同じように考え勝ちである。

社会科学では地理的環境や歴史的背景等に左右される部分が少なくないから、イギリス、ロシア、トルコ等につつた法則が、そのまま日本には適用出来ないのである。日本でなければ起らない事柄のあることを忘れてはならない。第三の人とその心との関係は、科学者としては余り考えない点で、芸術とか宗教とかいう問題になるが、これも充分に掘り下げて考えなくてはならない。

普仏戦争の時、哲学者フイヒテは『ドイツ国民に告ぐ』という大論文で国民の血を沸き立たせたのであるが、同じ学者でもヘーゲルは、表面の世論に関係なく泰然として勉強し、自分の研究を押し通したのである。フイヒテも立派ではあるが、哲学者としてはヘーゲルの方が永遠

の生命を持つていた。人によつていろいろな考え方はあると思うが、今日のような大変な時代には、特に深く物事を考える必要があると思ひます。

舟は最初に乗る「舟乗り」によつて、その舟の性格が作られるといひます。和敬塾は創立して五年経つたと言ひますが、まだほんちに緒についたばかりです。皆さんは、和敬塾の初期の「舟乗り」であつて、和敬塾はこれから何十年、何百年、鉄筋コンクリートですから何世紀ももつてしよう。皆さんがお作りになつた空気というものは、この塾の将来の性格として続いて行くと思ひます。皆さんの勉強の仕方、物の考え方、或いは生活の態度というものが、将来のこの塾を作つて行くのであります。

世間のことを忘れてはいけません、どちらかと言つとジャガ芋が土に居るように、そう早く花を咲かさなくても良いので、三年や四年はじつと土の中で考へて、そして立派な花を将来に伸ばすという気持ちで、勉強するなり、運動をやるなりして心身を鍛へることは、皆さんの為ばかりでなく、和敬塾の基礎を造ることである。和敬塾が立派に育つて行くことは、こういうモデル・ケースを世間に示し、世間全体に明るい希望を与えることであつて、人々に或る意味でのいましめともなる。

和敬塾の規律やきまりが守られて、各人の個

性が伸ばされ、立派な和敬塾の性格が完成することを、心からお祈りいたします。

※当DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。